

今秋の關西聯合保育會に出席して

京都 平安女學院保育科 大塚 喜一

昨日(十一月五日)神戸に於ける關西聯合保育會に出席してその印象新なる時に、この會合に現はれたる斯界の動きに就て、本誌十月號に掲載の拙文の終りに提唱しておいた「**幼児と共に生きる保育態度**」を念願しつつ、批判して行きたいと思ふ。

先づ、大阪市保育會提出の緊急動議「女子師範には保姆科を、男子師範には幼稚園を設置せらるゝ様文相へ電請するの件」は、主旨としてはもよより賛成であるが、只保姆科に教師として適任者を得る事が其實效を擧ぐる上に最も考慮を要する根本問題であると思ふ。教師の意識的計畫的教授を主とする學校教育に、幼児の生活の充實よりそのおのづからなる生長を完からしむるを本義とする幼稚園保育の内容並に形態^⑤上の特質の相違は、當然之に従事すべき

教育者養成に際して明かに區別しておかねばならぬ重要點である。「保姆養成上どういふ點に最も力を入れる事が大切」を考へられますか」に對する實際家のお答(本誌本年十月號七三頁所載)の中「人格の向上」の次に「幼稚園の使命につきもつこ自覺を持つやう」を記されたるもの多きは上述の兩者の相違より見る時一層その「自覺」を要すを考へられ、まことにもつこもな大勢と思ふ。尙これに關聯せる本題の重要點は保育科生徒の年齢に伴ふ女性としての心情の發達である。青年期の女性が愛の對象として兒童を要求する事は、スタンレー・ホール著「青年期の研究」(G. Stanley Hall, Adolescence)にも明かなる所、保姆養成に際しての目的を對象との契合點を此處に求めむとする吾人は高女時代より此方面に着手せんとする本案を此の意味に於て大に

尊重したいと思ふ。要はこの時期の女性の本具する幼児に對する純愛を素地として幼児と共に生きる生活體驗を實際に味ふ中に漸次保母らしき心情を直接、幼児から養はるゝ事に存する。彼女達が如何に幼児と水魚の交り、をなすかは吾人の最も切實に共鳴する所であつて、保母實習に於ても最も愛惜さるべき純なる心情である。この心の動きこそは、吾人の天職上實に中心的本原的なる關心の存する所である故、他日稿を新たにして眞面目に諸賢の御批判を仰ぎたいつもりである。只今回はこの稿の性質上、後に述ぶる所と關係ある要點を指示するに止めやう。

次に、談話題に對する各市保育會員の御發表を聽いての感想を將來への希望をを總括的に申上げたいと思ふ。何分時間が五分以内を制限されてゐるのであるから、この短時間内に有効適切なる發表をなすべくいろいろ御考へになつた事であらうと思ふ。この努力は我等の思想の洗練上極めて有効であつて、語る者は自己の思考の中心點を壓縮して述ぶる必要上明確に根本問題又は根本的態度を見きわめる事となり、聽く者は語る人の言はむに欲する生命點を端

的に直覺的に印象せしめられる。殊に今回は實際家のみの會合であるから、提出された各題に對し、何れを最重要點とし根本的態度とするかを、各市選手が競演されたさいふ形になるべきで、この意味にて豫め十月號六一頁に小生が「我等の努力の總決算に迄到達せん」を所期して置いた所に到達し得たかを今改めて御再考願ひたい。扱てこの意味に於て發表を有効適切ならしめむには、各談話題提出者の最初の「説明」が大切な役割を演ずる事なるのであるが、その模範的な實例は「自由遊の取扱方に就ての皆様の實際經驗を承りたい」を述べ始めて「日に新に日に新なり云々」を力説して答申の要所を指示せられた名古屋市保育會の御説明であつたと思ふ。斯く説明されたる間に單時間内に確答するには、現在の自己の努力の要點や保育態度上重要なりを信する特質を端的に先づ提出し、後漸次これが解説に及ぶさいふ風にすればよいので、そうすれば何時ベルが鳴つても登壇した効果は鮮明に會集に印象付けられてゐるであらう。その問題に就て誰しも知つて居り考へて居る様な事を始めに前置きの様に言つて居るは時間が無くなる

から、その誰もが知つてゐながら實行の出來難い點を事實
斯く解決し得た又はその解決の契機はここにあるといふ點
だけを云ひさへすれば、平生からその事に頭を悩ましてゐ
る同志の諸賢には「成程さうか！」と直ちに響く筈である。

斯かる切迫せる問答は或る程度迄の素養と體驗とを共有せ
らるゝ實際家の會合に於てのみ可能なのであつて、又斯く
してこそこの種の會合の獨特の効果を實現し得ると思ふ。

例へば「都市の幼稚園に於て特に保育上考慮すべき點」に
對し、吉備保育會から「保姆自身が子供の自然生活を味ふ
事が大切である」。と云はれたるは確に實感ある言葉とし
て敬服する所、恐らく先生方には保育體驗の深さに應じて
夫々御感慨ありし事と思ふ。

尙談話題を提出された方が最後に之に解答せられなかつ
た事は小生として甚だ遺憾且不思議に思つた次第である。

元來この談話題なるものが、生徒が先生に質問してゐる様
なものなら問を發して答を得ただけでよいのかも知れぬ
が、苟くも實際家の相互の研究であり懇談である以上、既
に提出されたる問題が實際に就て最も苦心してゐる點又は

最も重要なり日々實感しつゝある所からうまれて來たも
のである筈だから、その問題に就て各市代表者の意見を承
つた後それ等によつて啓發せられたる點を謝し尙足らぬ所
を補つて總決算をするといふ意味に於て、是非最後に一言
せられる必要がある。斯くしてこそ「お互の話し合ひ」とし
ての談話題が真に有効なるものとなるのである。(昭和六年
秋名古屋の大會にて小生が「重複しない點だけを申上げま
すならば」を前提して一番後に卑見を述べたのは斯かる理
由によるのである)。時間その他の都合上當日その發表を
遠慮せられたる各題提出者諸賢は、定めし思ふ事云はぬは
腹ふくるゝの御感ありし事と察するから、次號より本誌上
に於て續々御高見を發表せらるゝ様期待する次第であ
る。斯くして明年の大會を迎ふべく全國的に相互の不斷の
研究の趨勢を喚起せらるゝに至らば、斯道の爲眞に慶賀す
べき事と思ふ。

以上は主として、談話題なるものゝ本質上斯くあるべき
だと思ふ所を述べたのであるが、次にその内容に入つて、
保育態度の純化向上を目指しつゝ實地に即して考へて行き

たいと思ふ。

最初十月號に執筆した時は談話題を一つづつ別々に考へて行つたのであるが、「自由遊ミ」基本的態度ミを熟考するに及んで、各題間の相互の關係に次第に興味を覺えて見てゆく様になつた。そして、この五題は別々に各市から提出されたものであるが、元來が具體的渾一ミをなせる幼兒の生活から生じて來た諸問題なのであるから、この間に恰も五指の如き若くは人體の五臟の如き有機的な相助關係が必然的に内在してゐる實相に思ひ至つたのである。こゝ見て來た時この五題の中の中心的地位を占むるものは何ミ云つても「自由遊の取扱方につき承りたし」である。依て以下本題の御答ミしての當日の御發表に就ての感想より述べ漸次各題ミの相關關係に説き及ぼさうと思ふ。

本題提出者の御説明に最も叶ひ且吾人の今述べむミする精神ミ一致してゐるのは最初の吉備保育會の御答であつた。當時小生は筆記する餘地なき程熱心に聴き入つてゐたので大體の云はむミ欲せられた所は次の様であつたミ記憶してゐる。

「ままミ遊ミびを子供がしてゐて其處に幼兒の世界ミが展開せられてゐる時、側から大人がうつつかり言葉をかけたたり等しては却てその美しい世界を妨げ壞す弊がある。そこでブラ／＼してゐる幼兒に「あなた、八百屋さんになつてあそこのお家へ御馳走を賣つてあけて頂戴ミ」云つて幼兒をして幼兒に人間交渉する様に導くミ、その子も面白く遊べるミ共に、ままミ遊ミびが一層充實進展する様になる。

保姆は、幼兒の自ナチユラグル然群の各々に對して綿密なる配慮をなさねばならぬ。一群の幼兒ミの遊ミびに眞實なる交りを結ぶミ共に、全體の幼兒の動き、少くも自分の組の幼兒の動きに就てはいつも氣をつけてゐなければならぬ。……云々」

このお話を聽いて先づ思つたのは、自由遊ミびの本質たる自由感の實感何が保姆に最も必要だミ云ふ感銘であつた。

「取扱方ミ」云ふミすぐに「如何に指導するかミ」いふ様な、子供から稍々離れた傍觀的な態度でもつて何か提示された物を取扱ふ様に考へ易いものであるが、かくては到底保姆ミとしてのはたらき何を本當に現はす事が出來ぬミと思ふ。そ

んなえらさうな事を考へずに、もつこ謙虚な心で幼児の生活の仲間入りをしてゆく態度が我々にまつて何よりも大切なのである。大人が子供の仲間入り(外形よりも内心に於て)をするには如何なる態度であるべきかに就ては拙稿「基本教育としてのおはなし」(本誌昨年五月號)その他本誌に執筆の折に度々述べたからここに繰返すに及ばぬであらう。實にこれが出来たるやうになつてこそ、甫めて保母としてののはたらきが本物になつて来るのであることは、今夏東京での「保育の真諦」のお話の中に「幼児の生活の自己充實」**ミ**「充實指導」**ミ**の項に懇々ミ力説せられた通りである。「そこからが保育になつて来る」⁽⁹⁾は我々の努力の要點を幼児保育の特質から見て誤り無く理解し實行出来るやうよくも言はれた事だ**ミ**眞に敬服に耐えない。この意味に於て神戸の御發表中「かたつむりに見出した幼児の興味の機會を捕へてそれを中心に各項目を結び付けてその一日の保育をした**ミ**」言はれた經驗談が實に有意義であつた。これに就ては、岩波講座「教育講座」中の倉橋先生御執筆の「就學前の教育」四七頁の御言葉を、我々の日日の保育態度を思ひ起し

つゝ學んでゆきたいと思ふ。

「機會の捕捉は、往々にして考へらるゝ如く、たゞ生活の場合々々を利用するさいふ事だけでは出来ない。其の時の幼児の心もちに共鳴するのでなければならぬ。幼児が花を見てゐる。それを機會**ミ**して花に就て語るさいふだけでは、花に於て機會を見出したので、幼児の心もちに於て機會を捕へるさいふ微妙さに至らぬ。その時、幼児が如何の心もちにあるかを共鳴して、それに應じて行かなければならぬ。此の意味に於て、幼児教育は共鳴を以て初めてこまやかに行はれるさいふはれる。蓋し共鳴は先**方**・本位の受用の出發であり、過程であり、極致である」。

「一群の幼児達**ミ**の遊びに没頭してゐたのでは、そこはいゝが全體の管理に目が**ミ**ぎかないではないか**ミ**」は、よく問題**ミ**される實際上の苦心であるし小生も今迄幾度かこの問を受け又自らも考へた事があるのであるが、これに就て現在到達し得た考は、外的管理**ミ**內的な生活の動きに對する感能**ミ**の保育態度に現はるゝ相違である。茲に考へ及んだ時、倉橋先生のこのお言葉が實に生命的な啓示**ミ**して

響いて來ると思ふ。こうした幼児の心もちに共鳴し得る感能を保姆その人の性情に具有してゐるならば、一群の幼児達と遊びを偕にする時と同様の先方本位の態度を以て、他の幼児達の動きを心にかける事が出来る。この二つの心づかひは同質のものである。(註、遊びの興味の動きや没頭の深さは各々の個々群々により時々刻々に推移流動するものであるから、保姆がこの遊びに交渉關係する程度も其時の幼児の生活姿態の動きに應じて色々變つて行くべき筈である。全く遊びの中に入り切つてゐる時から、靜に側より見守つてゐる時又は離れてゐても心にかけてゐる時に至るまで、その詳細なる具象的實相は到底筆舌の限りではない。只この間を一貫して常住不變なるものは保姆の親切にして周到なる無我盡誠の態度である)。

従て全體に心を配るさいふ事は決して外的管理監督等といふのではなく、圓熟するにつれて本能的にまで自然に現はるゝに至る**内的な感じ**である。これであつてこそ、單なる子守が見守つてゐる時には、**て**も感じ得られぬ慈母の抱擁にもたさふべきあたゝかにやはらかなる守りの中にすべ

ての子供たちを生育せしめて行く事が出来るのであらうと思はれる。斯かる風光は今更小生が申上ぐるまでもなく御經驗ある先生方の何れも體現してゐられる所であらう。讀者は本誌昨年六月號に記されたる東京女高師附屬幼稚園の先生方が記されたる日誌を御覽になれば斯かる光景を隨所に見出されるに相違ない。

保姆その人の性情に斯かる**内的な感能**を具有する事は、保姆の修養並に養成上中心的**生命的な力點**であるが、吾人が本文の始に「**幼児と共に生きる保育態度**」を力説したのは後に述べべきことをねらつてゐるからである、この意味に於ても保育實習生や新進の若き保姆が謙虛なる心を以て幼兒の自由遊の面白さ眞面目さを眞に實感する事は、その人生のスタートとして極めて大切であつて、斯かる方向態度を以て年々共に經驗を重ねゆくことにより漸次上述の「**内的な感じ**」を生活體驗を通じてその人の性情の中に浸潤せしむる事が出来るであらう。吾人は新保姆を今日より將來へかけての保育界へ漸次送り出すは、**た**らきに**た**らきに**た**らきに参加せる者として、この意味に於て一園の保姆達が老若相和して新芽

の健やかなる育生に御高配下さる様、特に主任保母諸彦に懇願して止まぬ次第である⁽⁸⁾。

* * *

斯の如くに「自由遊」を見て来るに、他の各題もさういふ關係が自然について来るであらうかといふ事は興味ある問題であり、恐らく先生方にも色々の御経験に應じて夫々御考のある事と思ふ。ここには當日の御發表に就て小生の感じた中より、極く實際的なところを述べることにしやう。

先づ、「標準設備」に就て名古屋の方が「貧弱な設備を保母が利用する様な心得が大切である」云はれたのに共鳴する。保母が設備の事を考へてゐる以上、たゞ縮圖や備品一覽表の様なものを見てゐる時でも胸中には生きて動きつゝある幼児の群が映じてゐる筈であるから、設備の死活は人でありこのお考は一見事務的な本題を生きた動きのある考察の下に持來すヒントを與へられた點に於て實に有益であつた。丁度今夏の「保育真諦」の講習中に、自由遊の相關々係に就て述べられた所（九月號一六一—一七頁）が「自由遊」を本題と分れて出て來た本のところ（未分

化渾一なる生活實相）を指示してゐられる様に思はれるのは是非其處を御覽願ひたい。次にこれに就ては小生には面白い思ひ出がある。先年岡山での會合のプログラム中に實地保育參觀があり、小生は女教師幼稚園の保育實況を岡先生の御説明を伺つた後に拜見したのであつた。先生の御説明は子供の自由遊を重んじその自然なる誘導に保母が努力するとの主旨であつた。

その日小生は「生活」を探して之を芝生の飯事遊に見出ししばらく其光景に見されてゐたのであつた。

此際小生の興深く思つたのは、學校の室に入る石段が丁度飯事の臺所の様に使はれそれあるが爲に「**幼児の世界**」が實に格好よく展開されてゐた事、幼児は漸く通れるが大人は身を屈せねばならぬ位の空間を残して樹々が所々に生えてゐる爲に、殆ど小生の居る事が向ふから見え難い位になつてゐる事であつた。斯の如く半ば見え隠れになつてゐる配置は「想像的模倣」による靜かな遊び場所として極めて好適であると思つた。大人が何の氣なしに置いてあるもので子供が彼自身の世界の中に面白くも取入れて用ひてゐる

事を見出すのは實に愉快な事である。遊戯會の爲に机や椅子を屋外に出したまゝ片付けずに置いてあつたのを、子供が彼の意圖に従て用ひてゐるのを見て、設備上新に考へさせられる着想の契機なる事がある。この考をぐつゝ大膽に進めて行くに、設備の中にはむしろ子供が來てからその動きに應じて段々眞に要求さるゝものを具へて行くといふ方面が多いのではないかと思はれる。これは決して小生の空想ではなく、現に日本精神に生くる國民を教育するの目的を以て創立せられ一學級二十名の定員を以て組織せられたる生成學園の創立の日に述べられたる園長の次の式辭に明確に宣言せられてゐる。曰く

「有名なる學校は充分の設備を調べて後花々しく開校式を舉行して兒童を入學せしむる様である。然るに本園は漸く兒童を容るゝに足る校舎と庭園とを以て本日呱呱の聲を擧げたが、大切なる設備は寧ろこれから子供を、手本として、漸次その要求に應じて行く考である。云々」

こ。「標準設備」なる語が、最小限度の費用を以て最大限度の實効を擧げて行くには如何なる設備が最も活用の價値あ

るものかを攻究してゐるものと考ふれば、斯の如く子供を手本としての教育體驗から割り出された設備こそは、特に被教育者を本位とする幼稚園の設備として正に斯くあるべき規範であつて、從て必要にして充分なる典型としての一般妥當性を有し、各園夫々の事情に應じて考ふる際の基準を指示するものと思ふ。小生はこの創立式に臨んだ印象を檜崎博士の聯合會々場にての御講演と思ひ合せて深思内省せしめらるゝのである。この學園の精神はその日講堂に掲げられた額の文字に意味深く示されてゐる。曰く「中行日進」

「都市の幼稚園に於て特に考慮すべき點に就き大阪市から「體育中心、保健中心」の御意見の出た事は如何にももつこみである。只此際我等の意を用ふべき要點は、幼兒の眞實なる生活形態にふさはしき様その心身發育の自然の姿に從つて體育上の効果をも擧げて行かうとする心づかひである。若し之に反し、漸く充實せむとする幼兒の朝の自由遊びを規則的に中止せしめて一齊にラヂオ體操を課するが如きは、體育といふ部分的効果を收め得ても幼兒教育の

具體的効果を毀損するこいふ致命的缺陷ある事は云ふまでもない。或はこの動作を幼児に適切なる様に改善せんとの御研究あるこも聞いたが、更に進んで「體操」こいふ如き練習効果的な形態上の不自然より脱却して、眞に幼児らし

き寧ろ幼児の得意とする心身一致の活動たらしめてこそ、甫めて幼児教育の特質に合致する體育として、幼稚園に適切なるものとなり得るのである。都市の幼児が大人の文化

過重の弊を受けつゝある事は、體育上よりも更に性情涵養の方面に一層憂ふべきものある實狀に鑑み、實驗家諸賢に對し幼児本位の立場より御實行あらむ事を切願する。殊に「都市社會生活を園内に取入れ云々」を説明せられたる保育の實際に就ては斯かる見地より幼児教育の特質に抵觸せざる様、慎重なる考慮を希望する次第である。

尙、今回の御発表の方が、昨年大阪にこの「都市幼児教育講習會」聴講後の経過に就て一言も云はれなかつたのは、豫め十月號に期待しておいた小生として一層物足りなく思ふ次第である。あの講習以後の一年間に於て、都市の幼稚園としての獨特の使命に、これだけ進歩し改善し得たこい

ふ實行上の経過報告は、該講習に參し得ざりし他市各位にも貴重なる参考資料となるべきを思ひ、來月號本誌上に其發表をせらるゝ様特に期待する。

大阪市より御提出の「幼稚園と家庭との連絡方法中、徳育又は體育に關し母親教育に貢獻大なりし實際に就き承りたし」は、題意が事實實効を挙げ得た點を問ふてゐられるものであつただけ、最も實際的に充實したる御発表を承り得た様に思ふ。中にも「毎月誕生の幼児の母親を支持保姆との打解けた懇談を交す」を吉備京都兩保育會より述べられたる實際は、我等の保育上の努力を有効適切ならしむる上に最も肝要なる處置を思ふ。殊に幼児の自由遊を母親をして參觀せしむる事により家庭と幼稚園とに於けるわが子の生活姿態の異同を直觀的に比較し得る點に於て、一般的概念的なる講話等にては到底得られぬ直接の感銘——言葉の説明によりては到達し難き重要な真相を悟らしむる事があるであらう。斯かる參觀懇談との互に相助け相合して行はるゝこ先生の御苦心の存する所も眞に保護者に理

解せられ、表面的な連絡より内面的な提携へ協力一致へ進展するを得ば、幼児の幸福の増進すべき基本がこゝに成立する。母親と受持保母とが斯く心を合して進み行くべき、憂ふべき體質異常や性情の缺陷等も漸次その禍根を絶ち、その親心のひびき合ふ中に全園の保育精神はおのづから涵養振作せらるゝであらう。小生は京都市保育會より文書を以て詳細に發表せられたる御報告を讀み、家庭への通告を事實實施せしめらるゝに至るまでの御苦心と御誠意に對し實に保育上懇切なる御貢獻と敬意を表してこの項を結ぶこととする。

最後に、「幼稚園に於ける遊戲の基本的態度に就て承りたし」なる談話題の意見發表を、當日會場に於て述べべき時間なきの故を以て、文書にて掲載するのみに止められたるは、この會合の効果を收むる上に甚だ遺憾であつた。基本教育としての本題の重要性に就ては十月號に於て豫め諸賢の御注意を促し、且本題に就て話し合ふ際のねらひをも豫告しておいたから是非それを御覽願ひたい。大體遊戲は子供にさせるのだから、他の保育項目に比して特に幼児に

適切ならしむるを要し、若し幼児にふさはしからぬ内容並に形態のものあらば其弊最も寒心に耐えぬこゝは、「都市幼児教育講習」にても懇々力説せられたる所、恐らく實際家諸賢はこの點に就て吾人憂を共にせられつゝある事を信ずる。故に我等は今回神戸市より御提出の本題を尊重して、之を明年の大會への宿題とし今から一年がかりで幼児に忠實なる態度を以て實際的に研究して行きたいと思ふ。幼児に過度の遊戲を爲さしむるの不可なるは勿論であるが、扱て之を幼児に適切ならしむるには實際上幾多の研究と苦心を要するであらう。本題に就て上に述べた事を或る保母さんに話したところ、「今回の遊戲交換は例年に比しずつ幼児に適切なものが提出される様になつた事は、本題の影響にもよる事と思ふ。この點であなたの心配も薄らぐ譯である」。云はれた。吾人はもこよりこの傾向に對し喜んで賛意を表する。更に進んで幼児の自由遊戯遊戲との相助的關係に思ひ到らば、この方面の研究は保育體験の深度に應じて益々微妙の境に入る事は、戸倉先生の今夏の御研究により身を以て教へられたる通りである。讀者は

本誌九月號九十一頁に記されたる先生の御研究を読み、量に於ては僅か一頁の本文が如何に深甚なる努力と苦心とを洗練し醇化せられたる精華であるかを吾人共俱によくよく學ばれたい。吾人が今回の如き會合に出席して特に待望するものは實に斯の如き切らば血が出る生きた體験的研究の御發表である。年毎に量に於て盛會に趣きつゝある本會が、幸ひ質に於て斯かる方向に向上醇化して行くならば、「今年解けずんば明春を待て」と云ふ如く、提出さるゝ諸問題も本年に次回の問題を豫告せしめてその題意だけでも説明しておいて、其後一年間に各市各々が夫々小分團の研究會を適當の期を隔つて數回開催し、毎回隔意なき意見交換と眞實卒直赤裸々なる感想や經驗を語り合ふ間に練りに練つた最善の精華を其市保育會を代表する發表として提出せらるゝに至らば、如何に充實したる眞劍なる會合となり得るであらうか。丁度明年は大阪に於て全國的な大會が開催せらるゝこの事、何卒出來得る限り斯かる眞の研究をして頂ける様、開催に至る迄の會務萬端を處理せらるゝ主幹各位を始め會員一人一人に至るまで心を一にして今より結束

の歩武を合せて行きたいと思ふ。眞實なる體験的研究には相當長き時を要する故に、來るべき大會に提出さるべき協議題談話題等は、明年三月までに御決定の上四月號本誌々上に御發表下さる様豫め今よりお願いをしておきます。

* * *

關西聯合保育會の翌日(十一月六日)より今十五日まで十日間に亘つて一日數時間づつ考へては書き書いては考へて漸く以上御讀み下さつた如き文となつた次第である。執筆者たる小生は無私公平なる態度を以て、最初提示しておいた「**幼児と共に生きる保育態度**」を念願しつゝ筆を進めたつもりなので、この態度は今後も永久に續けて行くべきものも信ずる。若し萬一文中失禮に當る所やお氣に障る様な所があつたら、それは幼児が小生をして書かしてゐるので、意あつて文足らざる點を御諒察願ひたいと思ふ。小生自身もこれを讀み返して見て、この小なる自己がさうしてこゝにいふ事が云へるものか、みんな愛する多くの幼児達の聲がきこえて來るので、黙つて居れずに披瀝したのだと思ふより外はない。

斯く述べ來つてこの稿を結ばむとする時、幼児に對する感謝の念、又新に胸に迫るものがある。この心の動きこそ吾人の人生を一貫せる中心生命であつて、日々幼児と偕に生くる先生方はこの心を共にすべく最も話し甲斐ある方と信じてこの文を記した次第である。

註、文中に挿入附記せる番號は左記の箇所を夫々參照せられたし。

(1)本誌昭和六年三月號三七頁に引用せり。

スタンレー、ホール原著

元良博士外三氏譯 青年期の研究 縮刷版六二七頁

(G. Stanley Hall-Adolescence)

(2)本誌昨年十月號

「まして保母の心の態度は……」

保母として最善の生涯に入る道である」。

(3)第五回全國幼稚園關係者大會記錄一五四頁(三百五十一番)あるは三百五十番の誤

(4)本誌本年九月號五九一六三頁

(5)同 九七頁九九頁

(6) 同 二二頁

(7)本誌昨年九月號 五五頁

「あのしやかな慈眼を以て君臨……」

(8)本誌昨年十月號

「現今保育の實狀より云へば……」

諸賢の教を乞ひたいと思ふ」。

千葉秀子、山下ツヤ子 兩女史送別會

去る十一月二十五日(土)新裝成れる、本郷第一幼稚園
—と云ふよりは小向先生の幼稚園—で催されました。來
り參ずるもの壹百數十名、その中には帝都教育會の重鎮
も多數見えられました。私共當園一同の者もその末席に
列させていたりました。

左のプログラムにて時の經つのも打忘れ、宵暗迫る
頃、名残を惜しみつゝ散會いたしました。

プログラム

- 一、開會の辭
- 二、送別の辭
- 三、主賓の御挨拶
- 四、茶話懇談
- 五、餘興
- 六、閉會